

# 伸びる身長「足長」現代っ子 .....

この調査は、児童・生徒及び幼児の発育並びに健康状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的に行われています。調査の対象は、国・公立・私立の小学校、中学校、高等学校及び幼稚園のうち、調査実施校に指定された学校の一部の児童・生徒及び幼児です。

この調査における標本抽出の方法は、確率比例抽出法により行い、調査対象者は次表のとおりです。

ただし、4歳以下の幼児、通信制課程の生徒及び満18歳以上の生徒は除きます。

### 調査対象者数

区分	学校 総数	調査 実施校	抽出率	1校当 たりの 調査 対象者	調査 対象者	調査対 象割合
	校	校	%	人	人	%
小学校	594	60	10.1	89	5,287	1.9
中学校	215	40	18.6	114	4,560	3.6
高等学校	119	60	50.4	44	2,640	2.6
幼稚園	440	35	8.0	44	1,453	4.8
計	1,368	192			13,940	

## 調査の概要

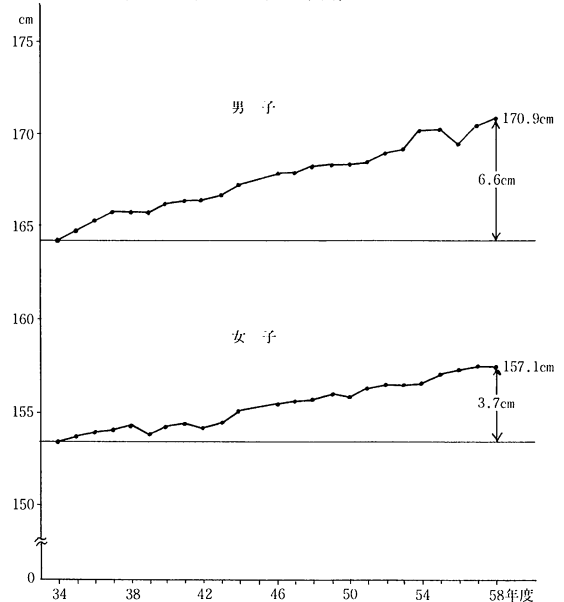
### 1. 児童・生徒及び幼児の体格

表-1 年齢別 身長・体重・胸囲・座高の平均値と男女差

区 分	身 長 (cm)			体 重 (kg)			胸 囲 (cm)			座 高 (cm)			
	男	女	差	男	女	差	男	女	差	男	女	差	
幼稚園 5歳	110.4	109.8	0.6	19.1	18.7	0.4	56.3	55.0	1.3	62.3	62.1	0.2	
小学校	6歳	116.3	115.9	0.4	21.2	21.1	0.1	57.9	56.7	1.2	65.1	64.9	0.2
	7	121.4	121.0	0.4	23.5	23.3	0.2	59.8	58.6	1.2	67.4	67.1	0.3
	8	127.1	126.6	0.5	26.5	25.9	0.6	62.3	60.9	1.4	69.8	69.5	0.3
	9	131.9	132.4	△0.5	29.3	29.1	0.2	64.6	63.5	1.1	71.9	72.1	△0.2
	10	137.3	138.1	△0.8	32.5	33.0	△0.5	66.7	66.7	0.0	74.2	74.7	△0.5
中学校	11	142.9	144.8	△1.9	36.4	37.6	△1.2	69.3	70.0	△0.7	76.7	78.0	△1.3
	12歳	149.7	150.5	△0.8	42.1	43.2	△1.1	73.4	75.0	△1.6	79.8	81.3	△1.5
	13	157.1	153.3	3.8	47.2	46.6	0.6	76.5	77.6	△1.1	83.0	82.7	0.3
高等学校	14	163.4	155.6	7.8	53.1	50.0	3.1	80.6	80.1	0.5	86.5	84.0	2.5
	15歳	167.9	156.8	11.1	58.4	52.3	6.1	83.2	81.3	1.9	89.3	84.8	4.5
	16	169.5	156.8	12.7	61.1	52.0	9.1	85.3	81.4	3.9	90.1	84.3	5.8
	17	170.9	157.1	13.8	61.5	52.1	9.4	85.8	81.7	4.1	90.4	84.5	5.9

注) 「差」は男子の数値から女子の数値を差し引いたものである。

図-1 17歳の男女別身長推移  
(昭和34年度～昭和58年度)



### (1) 体格の平均値

昭和58年度の身長、体重、胸囲及び座高の平均値とその男女差を学校種別及び年齢別にみると表-1のとおりである。

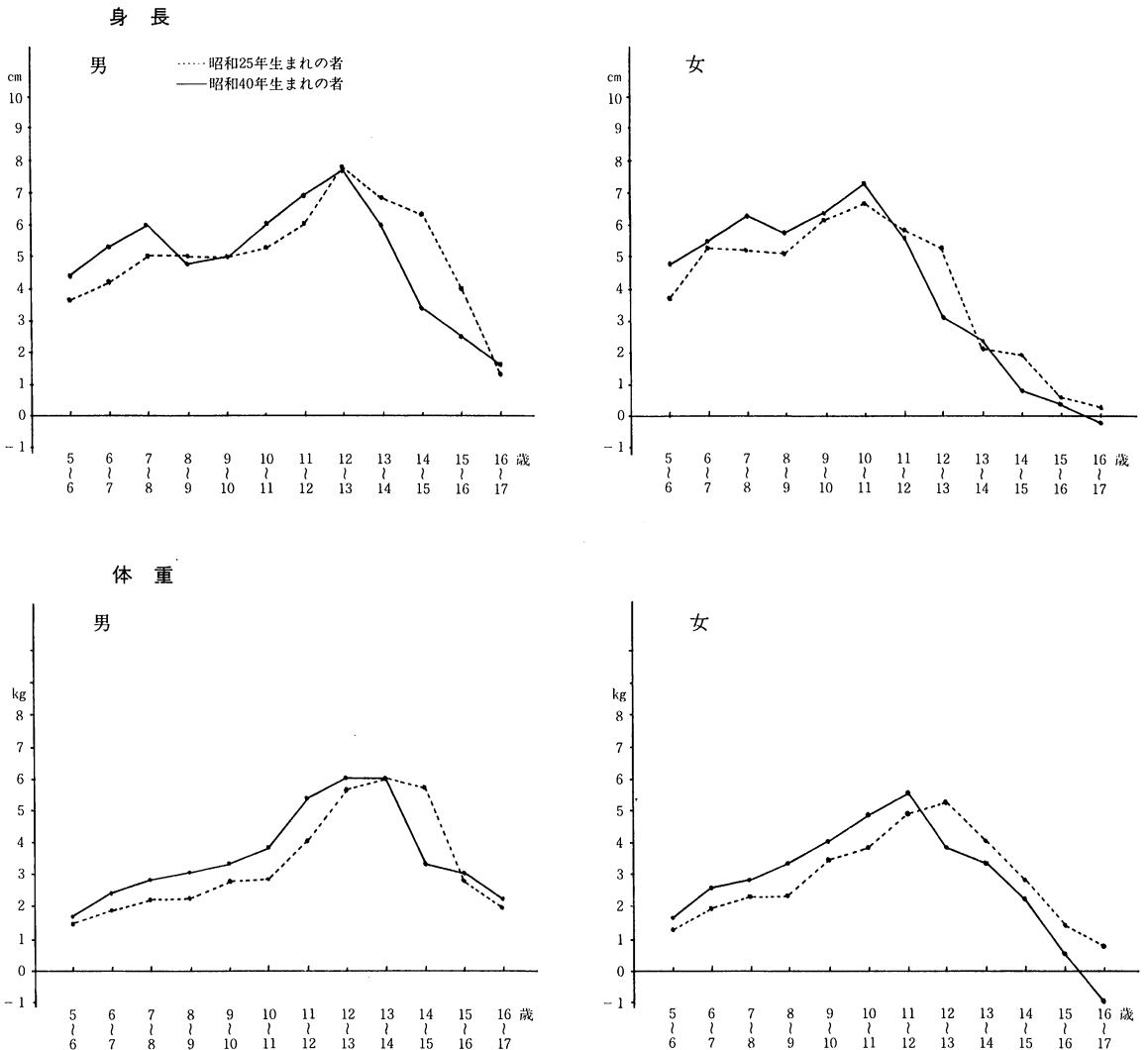
..... 昭和58年度学校保健統計調査結果から

男女の体格の差を年齢別にみると、身長、座高は8歳まで、体重、胸囲は9歳までそれぞれ男子が女子の体格を上回っている。その後9歳～12歳まで、胸囲については、13歳までそれぞれ女子が男子の体格を上回るようになり、その差が最も大きいのは、身長で1.9cm、体重で1.2kgのいずれも11歳で、胸囲1.6cm、座高1.5cmは12歳となっている。

しかし、この時期を過ぎると再び男子が女子の体格を上回るようになり、その差は17歳で最大となり、身長で13.8cm、体重で9.4kg、胸囲で4.1cm、座高で5.9cmとなっている。

また、発育状態がピークに達すると思われる17歳の身長についてみると、図一1のとおり、男子170.9cm、女子157.1cmとなっている。（表一1、図一1）

図一2 昭和40年生まれのと昭和25年生まれの者の年間発育量の推移



注) 年間発育量とは、たとえば、昭和40年生まれの者の「6歳～7歳」の年間発育量は昭和48年度調査7歳の者の体位から昭和47年度調査6歳の者の体位を引いたものとなる。

# 調査から

## (2) 6歳から17歳までの11年間の発育量

児童・生徒の身長・体重の年間発育量を「昭和40年生まれの者」（昭和46年度調査の6歳児は昭和58年度調査では17歳となる）と「昭和25年生まれの者」（昭和31年度調査の6歳児は昭和43年度調査では17歳となる）について比較してみると図-2のとおりとなる。

昭和40年生まれの者の年間発育量を年齢別及び性別にみると、身長の年間発育量の最も大きい時期は、男子では

「12歳～13歳」で女子は男子より2歳早く「10歳～11歳」となっている。同様に体重についてみると、男子では「13歳～14歳」。

女子は「11歳～12歳」で年間発育量が最も大きくなっている。

## 2. 児童・生徒及び幼児の健康状態

児童・生徒及び幼児の状況を学校種類別、被患率別にみると表-3のとおりとなっている。いずれの学校種類とも

表一2・(1) 昭和25年生まれの者の年間発育量

歳(昭和年)	男				女			
	身長(cm)	差(cm)	体重(kg)	差(kg)	身長(cm)	差(cm)	体重(kg)	差(kg)
5 (昭和31年)	106.8		17.5		105.8		17.1	
6 ( 32年)	110.5	3.7	19.0	1.5	109.6	3.8	18.4	1.3
7 ( 33年)	116.0	5.5	20.9	1.9	114.9	5.3	20.3	1.9
8 ( 34年)	121.0	5.0	23.0	2.1	120.2	5.3	22.6	2.3
9 ( 35年)	126.1	5.1	25.3	2.3	125.4	5.2	25.0	2.4
10 ( 36年)	131.2	5.1	28.1	2.8	131.6	6.2	28.5	3.5
11 ( 37年)	136.5	5.3	30.9	2.8	138.3	6.7	32.3	3.8
12 ( 38年)	142.5	6.0	34.8	3.9	144.1	5.8	37.2	4.9
13 ( 39年)	142.5	7.8	34.8	5.8	144.1	5.3	37.2	5.2
14 ( 40年)	150.3	6.9	40.6	6.2	149.4	2.2	42.4	3.9
15 ( 41年)	157.2	6.3	46.8	5.7	151.6	2.0	46.3	2.8
16 ( 42年)	163.5	1.9	52.5	2.7	153.6	0.6	49.1	1.5
17 ( 43年)	165.4	1.3	55.2	2.0	154.2	0.3	50.6	0.9
	166.7		57.2		154.5		51.5	

表一2・(2) 昭和40年生まれの者の年間発育量

歳(昭和年)	男				女			
	身長(cm)	差(cm)	体重(kg)	差(kg)	身長(cm)	差(cm)	体重(kg)	差(kg)
5 (昭和46年)	110.5		18.8		109.3		18.8	
6 ( 47年)	115.1	4.6	20.5	1.7	114.1	4.8	20.0	1.6
7 ( 48年)	120.6	5.5	22.9	2.4	119.5	5.4	22.5	2.5
8 ( 49年)	126.7	6.1	25.7	2.8	125.8	6.3	25.3	2.8
9 ( 50年)	126.7	4.9	25.7	3.1	125.8	5.6	25.3	3.3
10 ( 51年)	131.6	4.9	28.8	3.1	131.4	5.6	28.6	3.3
11 ( 52年)	136.7	5.1	32.1	3.3	137.7	6.3	32.6	4.0
12 ( 53年)	142.7	6.0	35.8	3.7	145.0	7.3	37.5	4.9
13 ( 54年)	142.7	6.8	35.8	5.4	145.0	5.6	37.5	5.5
14 ( 55年)	149.5	7.9	41.2	6.0	150.6	3.1	43.0	3.8
15 ( 56年)	157.4	6.0	47.2	6.1	153.7	2.3	46.8	3.4
16 ( 57年)	163.4	3.4	53.3	3.2	156.0	0.8	50.2	2.2
17 ( 58年)	166.8	2.5	56.5	2.9	156.8	0.5	52.4	0.6
	169.3	1.6	59.4	2.1	157.3	△0.2	53.0	△0.9
	170.9		61.5		157.1		52.1	

「う歯」(むし歯)の被患率が最も高く、幼稚園(88.1%)を除いて各学校とも90%以上となっている。次いで「裸眼視力1.0未満の者」が各学校種類とも高くなっており、特に高等学校では47%を占めている。(表一3)

(1) 「う歯」のある者

5年間の「う歯」の被患率の推移を学校種類別にみると、表一4のとおりである。

「う歯」の被患率は、中学校と幼稚園を除いて、昭和55年度

表一3 学校種別・疾病・異常被患率

区 分	計				男				女			
	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
裸眼視力	19.67	14.50	28.54	47.02	18.19	13.28	23.67	43.41	21.23	15.76	33.64	50.76
色覚異常	—	1.40	1.36	1.95	—	2.75	2.66	3.67	—	—	—	0.15
難聴	—	0.65	0.52	0.58	—	0.91	0.48	0.19	—	0.37	0.56	0.98
眼	—	—	0.02	—	—	—	—	—	—	—	0.05	—
結膜炎症	—	0.93	1.00	0.45	—	1.16	1.33	0.58	—	0.69	0.65	0.31
その他の眼疾異常	0.06	0.79	0.31	0.99	—	0.82	0.33	1.31	0.12	0.75	0.29	0.66
耳・鼻・いん頭	0.11	0.05	0.02	0.04	0.21	—	0.03	0.08	—	0.10	—	—
中耳炎	0.03	0.89	0.16	0.08	0.06	1.11	0.31	—	—	0.67	—	0.17
その他の耳疾異常	—	0.21	0.22	0.16	—	0.19	0.33	0.22	—	0.23	0.10	0.10
慢性副鼻腔炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
アデノイド	0.15	—	0.02	—	0.19	0.01	—	—	0.11	—	0.03	—
へんとう肥大	10.03	6.27	3.12	1.53	10.79	7.00	3.12	1.41	9.25	5.51	3.11	1.66
いん頭炎	—	2.15	0.47	0.12	—	2.78	0.70	0.04	—	1.48	0.23	0.21
その他の鼻・いん頭疾患・異常	—	0.27	0.05	0.41	—	0.29	0.05	0.58	—	0.24	0.05	0.23
歯	88.08	93.46	94.18	96.11	86.96	93.08	92.68	95.60	89.26	93.86	95.74	96.63
う歯	15.11	24.15	38.66	32.31	15.92	22.84	36.70	33.52	14.26	25.52	40.72	31.06
処置完了者	72.98	69.31	55.52	63.80	71.04	70.24	55.99	62.08	75.00	68.34	55.02	65.57
未処置歯のある者	1.33	9.93	4.72	4.14	1.29	9.23	4.89	3.11	1.38	10.67	4.55	5.21
その他の歯疾及び口腔の疾病・異常	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
核	—	0.32	1.26	0.91	—	0.31	1.61	0.97	—	0.34	0.89	0.84
蛋白質検出の者	2.94	3.32	—	—	2.62	3.61	—	—	3.27	3.01	—	—
寄生虫卵保有者	—	0.05	0.02	0.14	—	0.08	0.02	—	—	0.01	0.02	0.29
栄養状態	0.68	1.51	1.68	0.43	1.25	1.85	1.63	0.55	0.08	1.16	1.73	0.29
不良傾向	0.53	0.77	0.65	0.40	0.72	0.92	0.70	0.34	0.34	0.62	0.59	0.47
せき胸柱郭	0.04	0.52	0.49	0.31	0.08	0.58	0.53	0.15	—	0.44	0.46	0.47
計	0.49	0.25	0.15	0.10	0.65	0.33	0.17	0.19	0.34	0.17	0.13	—
その他のせき柱疾病異常・胸郭異常	0.20	0.40	0.15	—	0.23	0.44	0.08	—	0.16	0.36	0.24	—
伝染性皮膚疾患	0.28	0.03	0.36	0.32	0.43	0.01	0.48	0.17	0.12	0.05	0.24	0.47
心臓疾患・異常	0.22	0.38	0.23	0.05	0.32	0.36	0.23	0.10	0.12	0.40	0.23	—
ぜん息	—	0.15	0.10	—	—	0.17	0.12	—	—	0.12	0.08	—
腎臓疾患	—	0.07	—	—	—	0.11	—	—	—	0.03	—	—
寄生虫病	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
脳性小児麻痺	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
運動機能障害	—	0.02	—	0.04	—	0.01	0.01	0.08	—	0.03	—	—
身体虚弱	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
言語障害	—	0.04	0.04	—	—	0.06	0.08	—	—	0.02	—	—
精神薄弱	—	0.03	0.08	—	—	0.05	0.10	—	—	0.02	0.06	—
その他の疾病・異常	0.13	0.75	0.27	0.13	0.26	0.53	0.22	—	—	0.97	0.32	0.27
ツベルクリン反応	—	33.92	57.15	—	—	32.09	61.03	—	—	35.83	53.10	—
陽性	—	23.95	16.29	—	—	25.32	17.44	—	—	22.51	15.08	—
陰性	—	42.14	26.57	—	—	42.59	21.52	—	—	41.66	31.81	—

をピークとして年々低下している。昭和55年度と昭和58年度を比べると小学校で2.5ポイント、高等学校で1.1ポイントそれぞれ低下している。

—5のとおりである。各学校種類とも低下傾向を示している。また、男女別にその割合をみると、いずれの学校種類とも女子が男子より高くなっている。（表—5）

(2) 裸眼視力1.0未満の者

(統計課・人口労働グループ)

裸眼視力1.0未満の者について5年間の推移をみると表

表—4 う歯の被患率の推移

(単位:%)

年 度	幼 稚 園			小 学 校			中 学 校			高 等 学 校		
	計	処 置 完了者	未処置歯のある者	計	処 置 完了者	未処置歯のある者	計	処 置 完了者	未処置歯のある者	計	処 置 完了者	未処置歯のある者
昭和54年度	93.0 (100.0)	6.0 ( 6.5)	87.0	95.0 (100.0)	13.7 (14.4)	81.4	94.8 (100.0)	23.1 (24.4)	71.8	96.3 (100.0)	21.2 (22.0)	75.1
55	88.7 (100.0)	7.9 ( 8.9)	80.8	96.0 (100.0)	18.6 (19.4)	77.4	94.2 (100.0)	29.1 (30.9)	65.1	97.2 (100.0)	22.7 (23.4)	74.5
56	88.9 (100.0)	10.2 (11.5)	78.7	94.2 (100.0)	17.2 (18.3)	77.0	94.7 (100.0)	27.0 (28.5)	67.7	96.9 (100.0)	20.4 (21.1)	76.5
57	92.0 (100.0)	11.5 (12.5)	80.6	94.0 (100.0)	20.4 (21.7)	73.6	95.8 (100.0)	25.7 (26.8)	70.1	96.4 (100.0)	27.5 (28.5)	68.8
58	88.1 (100.0)	15.1 (17.1)	73.0	93.5 (100.0)	24.2 (25.9)	69.3	94.2 (100.0)	38.7 (41.1)	55.5	96.1 (100.0)	32.3 (33.6)	63.8

表—5 裸眼視力1.0未満の者の割合

(単位:%)

年 度	小 学 校			中 学 校			高 等 学 校		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
昭和54年度	14.0	12.0	16.1	32.0	27.3	36.8	51.5	44.7	58.5
55	16.3	13.5	19.3	30.2	23.9	36.8	50.6	46.5	54.8
56	17.1	14.6	19.7	30.0	24.1	36.3	50.8	45.9	55.8
57	14.3	11.0	17.6	31.0	24.3	38.0	48.1	43.7	52.6
58	14.5	13.3	15.8	28.5	23.7	33.6	47.0	43.4	50.8